



## 第13回高分子分析討論会報告【2008】



2008年11月26, 27日の2日間、高分子研究懇談会主催の表記討論会が開催された。名古屋地区での開催の会場はこれまでは名古屋市工業研究所であったが、参加者数の増加に伴い手狭になってきたことから、初めての国際会議場での開催となった。予想通り参加登録者数は過去最多であった東京開催の昨年と同等の376名、発表件数は昨年を上回る86件であった。

討論会は9:50、杉浦元保 実行委員長（豊田中研）の挨拶で開会した。続いて10:00から第1回目のポスターレビュー講演が行われた。ポスター発表は例年通り4回に分けて行われ、毎回3分間のプレビュー講演に引き続き1時間半のポスター発表が行われた。発表内容は高分子分析全般と多岐にわたるが、今回は手法ではMALDI-MSの発表、アプリケーションでは劣化解析に関する発表が目立っていた様に思う。熱心な議論が行われており、準備段階では広く見えたポスター会場も、窮屈に感じられたほどであった。

特別講演としては、初日のお昼休み後に「高分子材料の表面・界面構造・物性解析技術」と題して九州大学先端物質化学研究所・分子集積化学部門の高原淳教授の講演、2日目の午後の「高分子材料のNMRによる解析」と題して東京農工大学大学院 共生科学技術研究院の朝倉哲郎教授の講演の2件があった。お二人とも数々の賞を受賞されており、著書も多い。参加者の多くはこれまでも何らかの形でお二人の先生のお仕事に触れる機会があったであろうが、高分子分析としてまとまったお話を伺うまたとない機会となったことと思う。高原教授の講演では「うもれた界面(Buried Interface)」に関するお話に、朝倉教授の講演では試料量を少なくして高速回転させることで感度と分解能を上げる固体NMR用のマイクロMASプローブのお話には、はっとさせられた。眠っていた脳みそをたたき起こされた気分興味深く伺った。

ポスター賞では、例年の参加者による投票に加えて、「審査員賞」が新設された。初日のポスター賞は2件、審査員賞は1件で、2日目のポスター賞は3件、審査員賞は1件であり、それぞれ懇親会の席上と特別講演の後に、大谷肇 運営委員長(名工大)より授与された。審査員賞は歴代運営委員長・実行委員

長・招待者の先生方による投票であったが、票が集中し苦勞なく決定できた。受賞者は以下の7名であった（それぞれ講演番号順）。

審査員賞：

「有機ナノ近接場赤外分析技術の開発」高澤信明氏（トヨタ自動車）

「 $^{13}\text{C}$  NMRスペクトルの多変量解析によるアクリル系共重合体の組成決定」百瀬陽氏（徳島大院ソシオテクノサイエンス研究部）

ポスター賞：

「高分子材料の熱履歴推定方法の検討」飯塚友美子氏（住化分析センター）

「エレクトロスプレー帯電液滴衝撃質量分析法による低分子量ポリマーの分析」浅川大樹氏（山梨大クリーンエネルギー研究センター）

「凍結マイクロトーム加工法を用いた電池セパレータの分析」池ヶ谷昌仁氏（日立マクセル）

「顕微FT-IRイメージング法による高分子の劣化評価」有賀のり子氏（住化分析センター）

「特異な試料分解とMALDI-MSによる不飽和ポリエステル樹脂の架橋連鎖構造解析」神山真巳氏（名古屋工大）

初日の講演後には例年通り懇親会が同会場7階の展望レストランで開催された。一部手違いにより開会が若干遅れるなどのハプニングはあったものの、窓からの夜景を眺めながら歓談に花が咲いていた。来年の日程は未定であるが東京地区で開催の予定である。

〔神奈川大学 西本右子〕

